

◆日本共産党は、大軍拡・大増税許さず、命と暮らしを守る政治実現に全力を尽くします

休日当番病・医院

10月15日(日)

- ◆内科 夜間・休日急病センター 旭町 32-0099
- ◆外科 苦小牧日翔病院 矢代町 72-7000
- ◆歯科 うとない歯科 ウトナイ南 53-8888

診療時間：内科＝9時～翌朝7時、外科＝9時～17時、歯科＝9時～12時。本紙は毎週火曜日に編集のため、その後に休日当番医が変更になってもお知らせすることはできません。ご利用されるときには、あらかじめ電話でお確かめください。

法律相談



親身な相談で定評
10月25日(水)
長野順一 弁護士

(定員になり次第締め切ります)
日本共産党苦小牧地区委員会
苦小牧市見山町2-2-6 申込 56-5002

日本共産党

民主苦小牧

発行 日本共産党苦小牧地区委員会

苦小牧市見山町2丁目2番6号 電話 56-5002 fax 56-5086
日本共産党のホームページ <http://www.jcp.or.jp>
苦小牧市議会ホームページ <http://toma-jcp.sakura.ne.jp/>
eメールアドレス commun@rose.ocn.ne.jp



大軍拡・大増税許さず
NO

苦小牧市議会の一般会計決算審査特別委員会(24日)で、2022年度決算の審査が行われました。

日本共産党の小野寺幸恵議員は、22年度のIR(カジノを含む統合型リゾート)誘致の取り組みについて質問しました。担当部長は、「3回ほど道庁に出向き、人事異動後のあいさつや国の動向などについて打ち合わせをした」と



市長はIR誘致を諦める勇気もつべき

市議会一般会計決算審査

小野寺議員 カジノ断念迫る

と答えました。

岩倉博文市長は、22年度市政方針において、「引き続きIRを含めた国際リゾート構想の実現にむけて取り組んでいく」と強調し、総合開発特別委員会では、「知事が判断するときの材料となるような資料収集の作業をしている」とも述べていました。

鈴木道知事は、19年11月と21年の12月の二度にわたり、環境に配慮するための調査が必要との理由から、IR誘致を見送った経緯があります。

岩倉市長は、環境影響調査を実施し、21年に道に提示しています。環境影響調査の内容についてどのような協議をしたのかをたじた小野寺委員の質問に対し、「協議はしていないが、否定はなかった」と答えました。小野寺委員は、「知事に誘致の判断をしてもうための環境影響調査だったのに、具体的な協議もしていないのか」と批判しました。

今年8月に日本共産党が行った道交渉で、苦小牧市議団はIR誘致の断念を求め、苦小牧市の環境影響調査の評価について質問しています。道の回答は「具体的な評価まで至っていない」でした。小野寺委員は、この道の回答を示し、「すでに北海道はIR誘

日米訓練黙って見過ごせない

憲法生かす会宣伝

戦争準備を阻止しよう



致に非常に消極的になっている。市も、北海道への働きかけもできていない。市長は突き進むだけではなく、あきらめる勇気を持ち、担当職員を解放してあげるべきだ」と迫りました。

岩倉市長は、「あきらめる勇気など必要ない。IRは北海道の未来のために必要な装置だ」と従来の答弁を繰り返しました。

に及ぶ横断幕や、「いいね! 日本国憲法」などのパネルを持ち、岸田政権の大軍拡と戦争準備を批判しました。

美光九条の会の能勢公事務局長は、「ウクライナ戦争の終息が見通せず、一進一退の戦況報道がされるなか、日本も軍事力を備えるべきの声が出ています。戦争には必ず理由と原因とプロセスがあり、日本には他の国から攻められる理由や原因があるのか。北朝鮮のミサイル発射や台湾有事を挙げ危機を煽る人たちがいるが、攻められないようにするのが政治の役割ではないのか。平和憲法を守り、戦争する国づくりにノーを突きつけよう」と力を込め訴えました。

「平和憲法を生かす苦小牧連絡会」は6日、双葉三条通(バイパス)交差点山手町側で、スタンディング宣伝を行いました。61回目です。

参加者らは、「平和憲法を未来につなぐ」と書いた12羽の鶴を飛ばしました。

苦小牧地区労連の斉藤秀夫事務局長は、「沖縄の負担軽減

マイナカード強制になる
健康保険証の
廃止強行抗議
日本共産党

減の名の下に先月末から米軍戦闘機の訓練移転(日米共同訓練)が行われた。12回目だ。米艦船の苦小牧港寄港は、今回は中止となったが、北海道中の港への寄港・入港が相次ぎ、自衛隊戦車の公道を使っている。陸も空も海も、米軍と自衛隊も一緒になって訓練している。慣熟作戦の一環であり、市民に慣れさせようとするのが見え隠れしている。黙っているわけにはいかない」と力を込めました。

斉藤事務局長はさらに、「統一協会の事務所は苦小牧にもあるが、政府は解散命令請求をすることにしたが、裁判所が命令を出すよう見とどけなければならぬ。協会とつながりのある勝共連合は選挙のたびに謀略ピラを出し、憲法改悪や教育などについて日本を右へ右へと導こうとしている。戦争を準備する道だ。阻止していかう」と売ったえましました。

2018年から市内2カ所で月1回行ってきたスタディング宣伝は、柳町での69回と合わせて130回、参加者は1800人を数えています。車道から、支援の音がありました。

職員が安心して働ける体制を

原市議 市立病院決算質疑 長時間労働解消求む



苦小牧市議会の企業会計審査特別委員会(4月5日)の2022年度決算の審査で、日本共産党の原啓司議員は、市立病院事業決算で長時間労働に関わり質疑しました。

労働安全衛生法では、長時間労働や疲労の蓄積が認められる職員に対して、産業医等の面談の実施に関する基準があります。原委員は、他の委員の質疑で22年には、ストレスチェックにおいて高ストレスに該当した2人に対して医師面談を実施したとの答弁を受けて、ストレスチェック以外でどのように医師面談に



つなげているのかの判断基準と精神的不調を理由とした休職や退職の実態についてたどりました。担当者は、「本人の希望により医師の面談を可能としているほか、公認心理士が相談窓口となり、専門的な立場で適切な助言を受けられる体制をとっている。22年度の場合、月に2〜3件の日常の仕事上の悩みについて公認心理士が対応した。精神的理由は数名おり、所定の療養日数を超えた休職発令は1人いる」と答弁。

つげられたことに関連し、市立病院での出勤・退勤管理の現状と課題についてたどりました。経営管理課長は、「21年12月から医師を対象に出退勤管理を実施しているが、タイムカードの打刻率の向上や勤怠管理データの活用が課題となっている。医師以外の職種については基本的に管理職の現認によって行われている。今後については、24時間体制でさまざまな職種が働いていることから、他の自治体病院とも情報共有して最善な勤怠管理を検討したい」と答えました。

原委員は最後に、「22年度は新型コロナウイルス対応に追われ、長期に渡る緊張状態も極限に近いものがあつた

子どもたちのつながりどう作る

28日 全教いぶり教育講演会 佐藤氏報告

全胆振教職員組合(全教いぶり)は今年28日に、教育講演会を開催します。

全教いぶりは2007年に発足し、教育講演会を重視して活動してきています。今回は、小学校教諭で全国生活指導研究協議会の佐藤環さんを迎え、「つながりなくなくなった子ども・大人のために、今、できること」と題して講演します。コロナ禍でつながりをつくるのが苦手な子どもたちがますます孤立しており、生

活指導の経験豊富な佐藤先生が、つながりをつくるための実践を報告します。

全教いぶりでは、教職員だけでなく、保護者や地域で子どもたちと関わりを増やしたいと考えているみなさんの参加を呼びかけています。

☆ 10月28日(土)午後2時

市民会館205号室

参加費 無料

連絡先 渋谷さん

電話 57・4045

いわさきちひろ

2024年版カレンダー
大判 1540円(税込)

つづら子と子どもたちに平和を

わかさ書店
注文はTEL 56-5002へ



女性がかけ橋となって 政治を変える

国会かけある記 紙ともこです

東京からスタートした《女性がかけ橋となって政治を変える》フェミブリッジ・アクションの札幌行動(9月30日)に参加しました。

ミモザイエロー(国際婦人デー)の風船やTシャツ、「軍事より生活! 子どもたちの未来に平和を!」と書いた横断幕を掲げ、市民団体や政党代表が次々とリレースピーチ。「軍拡NO! 女たちの会・北海道」呼びかけ人の山口たかさんのあいさつのもと、日本共産党、社民党や立憲民主党、生活クラブ生協、れいわ新選組、平和婦人会などが続き、室蘭工業大学大学院の清末愛



砂教授も憲法の立場から訴えました。

私は「聞く力」と言いながら、マイナランバー、インボイス、大軍拡・大増税、ジェンダー平等でも、「聞く」どころか強行・暴走を続ける岸田政権を批判し、コロナ禍での青年ユニオンの運動を紹介しました。

2020年春にコロナ感染症が拡大、当時の首相は一方的に全国一斉休校に。多くの保護者が休業を余儀なくされ苦境に陥り、休業補償を申請しました。ところが受け付けない企業。これはおかしいと運動に立ちあがりました。当時20代の契約社員の女性が「あの時思ったのです。この国は学校の一斉休校という政策によって引き起こされたことでも、自己責任で解決させようとするんだ。でも私たちは納税者です。子どもを育てている私たちが大事にされない。おかしい」と語りました。

そのとおり! 「国民を大事にしない政治は声をあげて変えましょう!」と訴えました。

紙智子(かみ・ともこ) 日本共産党参議院議員